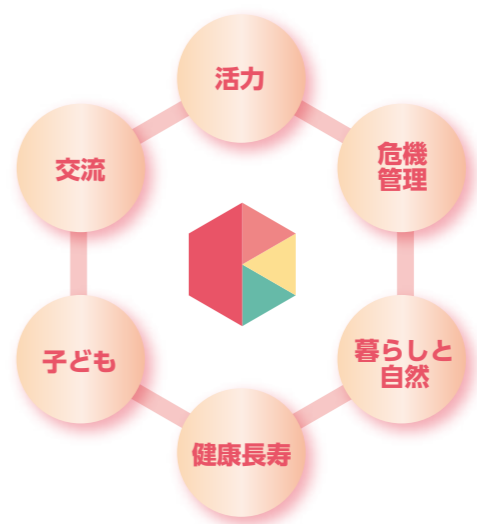


町の将来像（10年後に目指すべき町の姿）

「みんなが幸せを実感できる 元気なまち こおり」

温かみのある町民みんなが、自然や歴史、文化、産業、教育など、本町の特色ある恵まれた地域資源を最大限に生かしながら、元気や活力があふれる「輝かしい」未来に向かって魅力的なまちづくりを推進する姿を、「町の将来像」として次のように掲げます。



図の「桑折町ロゴマーク」は、町の宝である自然、歴史、文化などを「桑折ブランド」として確立するために作成しました。

町民の温かさや桃、半田山などをイメージした色や、人と人、過去・未来とのつながりをイメージし、雪の結晶の形でもある六角形でデザインされています。

六角形は、バランス・調和の象徴で、亀甲模様など、古来より長寿吉兆の象徴として縁起の良い形とされており、「6恵6幸」には、町民みんなの調和・安定や幸せ、過去と未来や人とのつながりという願いも込められています。

この計画は、6つの方針に基づき各種施策を展開し、将来像の実現を目指す計画であるため、サブタイトルとして「**6恵(く)6幸(く)こおり未来プラン**」と掲げています。

将来像実現のための6つの方針

1 活力と賑わいに満ちたまちづくり

●「献上桃の郷」の産地継承に向けた新規就農者後継者の育成支援、農業振興活動拠点施設「レガールこおり」の活用、有害鳥獣対策等に取り組み、町農産物のブランド化などにより農家所得の向上を図ります。

●伊達桑折インターチェンジ周辺の交通環境の充実をPRし、企業誘致による新たな雇用創出、商工会などと連携した魅力的な商業環境づくり、サテライトオフィスの整備などを行い、地域経済の活性化を図ります。

●地域の特性や自然環境との調和を図るとともに、駅前公有地（福島蚕糸跡地）への商業施設を核とした複合施設の誘致など、利便性・快適性が高い機能が集約した都市的土地利用の推進に取り組みます。



2 危機管理に備えた安全・安心のまちづくり

●役場庁舎を拠点とした危機管理に備える体制の充実をはじめ、災害時に最前線に立つ消防団員の活動環境の整備、湛水防除対策の強化など自然災害に備える体制強化、コロナ禍の経験を踏まえた防疫対策の強化に万全を期します。

●自助・公助・共助の考えのもと、町内会や住民自治協議会などの連携を図り、消防・防災の強化や生活安全対策の推進に取り組みます。



3 暮らしと自然が調和した豊かさを実感できるまちづくり

●誇り・宝である恵まれた自然を守り、次世代へ引き継いでいけるよう、森林環境を保全しながら、みんなが便利で快適に暮らせる豊かなまちをつくるため、都市緑化や歴史的な景観形成などに取り組みます。

●道路交通ネットワークの整備や住生活環境・環境衛生の充実に取り組みます。

●地球環境保護のため、脱炭素社会実現を推進するとともに、再生可能エネルギーの導入推進を図ります。



4 健康長寿で元気なまちづくり

●みんなが心身ともに健康で生き生きと暮らせるよう、健康づくりと医療の推進を図るとともに、生涯スポーツ事業と連携した体力向上と健康増進に取り組みます。

●誰もが安心して生きがいをもって暮らせるよう、地域福祉と障がい者福祉、高齢者福祉の推進とともに、生涯学習事業と連携し、社会参加の促進を図っていきます。



5 子どもを大切にすまちづくり

●「子育てするなら桑折町」と町内外から評価されるよう、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援に取り組み「桑折版ネウボラ」を推進し、子育て支援の充実を図ります。

●待機児童ゼロの堅持や幼児教育の質の向上、学力向上対策の推進やGIGAスクール構想などにより、乳幼児保育・教育や学校教育のさらなる充実を図るとともに、みんなが子育て・教育に携わり、人間としての基本を身につけ、目標に向かって高い志をもち、強みを発揮してたくましく未来を切り拓いていく「桑折っ子」を育成します。



6 交流で絆を育むまちづくり

●みんなが互いに協力しながら、シティプロモーションを戦略的に推進し、町民の地域への愛着と誇り（桑折プライド）の醸成を図るとともに、町の魅力や元気を積極的に発信し、町の知名度向上に取り組みます。

●コロナ禍を契機に急速に普及したリモートワークやオンラインなどによる交流、密を避けられる地方への関心の高まりを踏まえた観光交流や歴史まちづくりの推進に取り組み、交流の輪を広げ、本町への新たな人の流れを創出していきます。

